

4 総合的な探究の時間「未来探究」(3学年)

(1) 学年発表会

ア 目的

これまで学んできた未病・地域防災の知識と発見した地域の課題を結び付けて問題提起をし、独自の解決策を提案し実践する探究活動を通して、自己実現を果たす。

イ 日程

令和3年10月22日(金) 8時40分～14時30分

- ・ 各会場別学年全員発表会 8時40分～11時30分
- ・ 教員による代表者選考・協議 11時40分～12時10分
- ・ 代表者による全体発表 13時20分～14時30分

ウ 対象生徒

3学年 194名

エ 活動内容

1学年で学習した「山北」「未病」「防災」、2学年で学習した「未病」「地域防災」など、これまで学習してきた内容を生かし、地域との関わりについて踏まえながら作り、準備、製作に約半年間かけ、発表を行った。

昨年度の6種類のゼミを引き継ぎ、さらに未病のゼミを作成して8つのグループにわかれて各教室で担当の教員を配置して活動を行った。授業では、「毎回発表すること」をテーマとして、発表に慣れること、相手に伝えるスライドや発表スキルを身に付けることを目的として取り組んだ。発表の際は、右の図にもある発表・評価・改善シートを使用した。また、毎回聞き手を変える工夫をし、多くの意見を得られるようにした。特に、「アイディアのユニーク性を高める」「アクションプランの具体化」「調査やエビデンスの精度を上げる」ことを大切にして発表を行った。

最終発表の発表時間は各グループ4分とし、生徒はワークシートを使いながら採点と振り返りを行った。また、教員も採点に参加した。午前では、3会場に分かれて全グループが発表し、各会場から代表グループを選考した。その後、生徒からの採点結果も踏まえたうえで、教員で各会場から3～4グループを選出し、計10グループを午後の学年全体への発表グループとして選出した。

<採点基準は以下の4観点とした。>

- ・ 課題の共感性…根拠が十分で、多くの人が共感できる課題を設定できているか。
- ・ 解決策のユニークさ…まだ社会にないオリジナルの解決策を提案できているか。
- ・ 解決策の実行可能性…アクションプランが具体的に練られており、実際に実行できそうか。
- ・ プレゼンテーション…視覚的に効果的なプレゼンテーションができており、観客を説得できているか。

午後は体育館で学年全体に向けて代表グループが発表を行った。全発表終了後、教員で協議を行い、グランプリ1グループ、準グランプリ3グループを選出した。最後に校長、学年主任、カタパルトの担当者から講評をいただき、会を締めくくった。



< 3 学年未来探究スケジュール >

山形大学附属実業学校		2023年4月							
コマ番	学年	1	2	3	4	5	6	7	
	3学年 少人数 ごとの チーム	実情、地区の産業 グループ	人口減少、産業・部 門	高齢化、高齢福祉	IT、特産品	観光、活性化、創 業精神	観光業、人口増加	創産性、産官学・産 官連携	
	探究科目 概要	総論 3-6	産業・小論 2-1	論争 2-2	論争・社 3-3	論争・産 3-4	小論文 3-5	発表・発表 発表内容1 発表内容2	
	チーム メンバー 選り番号 チーム名 メンバー名								
1	4月12日	5	多シエン、10時 チーム分け(準備時間) 前期までの成果報告に付き、アイデアをもよおし、確認する話し合いを行い、スライドを作成する						
2	4月13日	6	スライド作成 足りない所の、翌日のPW準備						
3	4月18日	1	発表						
4	4月19日	2	発表						
5	4月20日	3	発表						
6	4月21日	4	スライド作成						
7	4月22日	5	アイデアのユニークな発案を プレゼン・発表をチームで行う アイデアをもよおし確認する発表をしあう						
8	4月23日	6	スライド修正						
9	5月1日	5	アウォーディングの準備 プレゼン・発表をチームで行う 発表に対するの質問や証拠、資料などの必要な資料を見出しあう						
10	5月2日	6	スライド修正						
11	6月10日	5	発表やプレゼンなどの準備をよめる プレゼン・発表をチームで行う 発表に対するの質問や証拠、資料などの必要な資料を見出しあう						
12	6月11日	6	スライド修正						
13	6月24日	5	プレゼン内容を固める 最終的な完成度を上げる(最終発表でプレゼン)						
14	6月25日	6	スライド修正						
15	7月1日	5	最終の修正またはPW						
16	7月2日	6	最終の修正またはPW						
17	9月17日	1	発表						
18	9月18日	2	発表						
19	9月19日	3	発表						
20	9月20日	4	発表						

<発表・評価 改善シート>

発表・評価 改善シート	
月 日	TEAM名
○	良かった点
?	疑問点 改善点

< 3 学年探究発表会 発表一覧 >

講演番号	タイトル	カテゴリー
1	未病を見つけよう	未病
2	未病予防の食生活プログラム	未病
3	新聞紙を使った運動	未病
4	保護動物カフェを廃校に作ろう	山北
5	学校でイベントを開催したい	その他
6	コロナウイルスによって破壊された自然とは	山北
7	スマホ消毒について	未病
8	人口減少について	山北
9	未病改善	未病
10	山北で結婚して住んでもらおう大作戦	山北
11	秦野市を活性化させるためには	その他
12	山北町の人口を増やすための対策	山北
13	地域から全国へ	山北
14	休んで見つかる山北町	山北
15	山北町を健康にしよう	山北
16	山北町の発展	山北
17	山北町の少子高齢化対策	山北
18	介護需要を少なくするには	その他
19	山北の町おこし	山北
20	高齢化	山北
21	産婦人科の必要性	その他
22	人口減少を防ぐためには	山北
23	あなたと紡ぐ未来 観光で町をにぎやかに	未病
24	海老名のよさを多くの人に知ってもらうには、どうしたらいいか	その他
25	特産品を使って地域の住みやすさUP!	その他
26	箱根のおみやげで地域活性化	その他
27	山北町の魅力とは?	山北
28	山北をもっと有名にするには	山北
29	南足柄市の特産品	その他
30	秦野市に住もう!!	未病
31	山北町の活性化	山北
32	Zero Garbage Project	その他
33	行ってみよう!!生まれ変わった山北町へ	山北
34	山北町を人気な町にしよう!	山北
35	山北町に若者を呼びこむために	その他
36	Y×Y 2つの町の魅力とは	その他
37	山北森林セラピー	山北
38	山北町の活性化	山北
39	山北町に花火を打ち上げよう!	山北
40	山北と弓道	山北
41	山北絶品極上パフェ	山北
42	理想の山北	山北
43	山北町に人を呼び込むために	山北
44	ツリーハウスやグランピングをつくり、山北町を盛り上げる	山北
45	機械と高齢者の暮らし	未病
46	じゅーたい	その他
47	特産品をアピールするには?	その他
48	Walk instead!!	未病
49	開成町に若者を呼ぶ方法	未病
50	近代と自然の融合	その他
51	宣誓!「ただだ・大統領」	山北
52	住みやすい町	山北
53	どうすれば御殿場線の利用者が増えるのか	その他
54	健康から始まるコミュニケーションって?	山北
55	山北町に人を呼ぶために	山北
56	山北を豊にするためには	山北
57	キャンプ人口増殖計画	山北
58	御殿場線の本数を増やしたい!	山北
59	山北町の発展	山北

オ 成果及び評価

4月の最初の授業で1年間の授業スケジュールを示し、生徒は4月から約半年間この日の発表に向けて準備をしてきた。具体的には少人数のゼミに分かれ、プレゼンテーションの準備、発表練習を行い、生徒、教員からフィードバックをもらうことで改良を重ねてきた。繰り返し発表練習を行うことで生徒は発表に慣れることができ、人前に立つこと対しての抵抗も少なくなってきた。さらに、教員からだけでなく、生徒同士でフィードバックを行うことで、「いい発表」についての基準が徐々に定まってきた。それらを自分達の発表に生かすことで、よりよいプレゼンテーションへの改良がみられ、学年全体への発表会へ進めなかったグループでも非常に高いクオリティの発表となった。また、少人数のゼミでの活動によって、教員と生徒が密にコミュニケーションをとる機会が増加し、生徒一人ひとりにきめ細かな指導ができただけでなく、信頼関係が築かれ、授業以外の学校生活での指導も円滑に進めることができた。

カ 今後の課題

学年の生徒全員が大勢の前で発表することはできた一方で、長時間にわたって他グループの発表を聞くことにより、集中力が切れてしまう生徒もいた。また、生徒による評価も行ったが、インパクトのみに評価基準が偏ってしまう傾向がある。今後、評価基準を再検討するなどして、発表の内容に目を向け、集中力が続くような工夫をしていく必要がある。